

(8) 学校実習・ボランティア支援室**① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

学校実習・ボランティア支援室は、教育実習、学校実習及び学生の各種ボランティア活動を円滑に実施するための支援・危機管理等を行うことを目的として設置されている。

イ 組織の構成及び構成員等

学校実習・ボランティア支援室は、室長、特任教員、兼務教員、学長が指名した附属学校長、教育実習委員会委員長、学校実習委員会委員長、その他必要な職員で組織し、計20人で構成されている。

② 運営・活動の状況**ア 委員会等の開催状況**

令和5年度においては、以下のとおり2回開催した。

- ・ 第1回 令和5年4月7日（金）
- ・ 第2回 令和6年3月7日（木）

イ 審議された主な事項

令和5年度の主な審議事項は、「ボランティア体験」、「学校ボランティアA(学校支援体験)」、「学校ボランティアB(学校支援体験)」及び「総合インターシップ」に係る令和5年度実施計画並びにこれら授業の履修状況等についてである。

ウ 重点的に取組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行したことから、大きな影響をうけることなく、授業やボランティアを実施することができた。特に受入機関からのボランティアの依頼が急増しているため、従来の対面での説明会や指導等に加えてメールやclassroomを活用し、感染症対策の徹底に努めた。またボランティア関連の授業では、受入機関の担当者を大学に招いて講義や実技を行っていただき、学生のボランティアに対する意欲を高める一役を担うことになった。

③ 優れた点及び今後の検討課題等

学部1年選択「ボランティア体験」では、授業内でボランティアの模擬体験を行ったり、受入機関から職員の方を講師として招き、体験活動を行い学生のボランティアへの意欲を喚起した。また、Jamboardを取り入れて、活動の振り返りや意見交換を行った。Jamboardを活用することで、感染症対策につながるともに、意見交換の様子をリアルタイムで共有することができ、多種多様な意見を聞ける好機会となった。

今後も学生の積極的な参加を促進するため、メールやオンライン(classroom)、ちらし等を活用し、ボランティア体験に対する広報活動を行っていく。

学部2年必修「学校ボランティアA」では、受入校5校の担当者と連携を密にすることで、本事業に対し協力的な対応を得た。また、10月の「中間発表会」と1月の「履修発表会」では、3つの教室に分かれて、Jamboardを使い意見交換を行った。Jamboardを使つての授業は教育実地研究Ⅱなどで何度も体験しているので、学生もスムーズに対応することができた。トピックになる言葉を書き込み、エピソードを話すというJamboardを使ったスタイルは効果的で今後も継続して行っていく。

学部3年選択「学校ボランティアB」では、特任教員が教育実習の際に小学校を訪問するたびに、学校ボランティアBと教育ボランティアについて、広報資料を使って説明を行った。その結果、多数の小学校から学校ボランティアBに係る学生派遣要請があった。学生も実習校の担当者から「また学校にきてほし

い」という声かけをしていただいたことで、学校ボランティアBの履修を希望する学生が増加した。授業では、小学校で特別支援教育に携わっている教員から講義をしていただき、上越市の現状や新しい情報を取り入れることができるように努めた。また、昨年度2校に渡って活動を行った学生が増えたが、学校サイドとしてはもっと活動日や時間を増やしてもらいたかったという意見があり、今年度は、学生1名あたりの実習校を1校に絞って派遣し、学生への負担感が増えないよう配慮することで、学生の活動時数は平均40時間を超えることができた。

学部4年選択「総合インターンシップ」を履修した学生は、教員としての資質向上に向けて非常に意欲的で、熱心に取り組んだ。今後は、本講座に対して、学内の教員及び学生への理解をさらに進めていく必要がある、特に学部1年生から本講座の意義と重要性を広報し、履修学生数の増加を目指していきたい。

授業外のボランティアとして、教育ボランティア、社会教育ボランティア、その他のボランティア等がある。新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へ移行したことから、ボランティアの依頼が着実に増えてきている。上越教育大学の学生ボランティアの有用性に対する認知が進むにつれ、学校などの教育機関だけでなく、地域での行事や活動、行政主催による各種イベントなどのサポートスタッフとして、学生の力が期待されている。

本学ならではの特筆すべきボランティア活動を通して、学生が教員として求められる社会性やコミュニケーション能力を高めていくという理念を大切にして、今後もボランティア活動の更なる充実を企図していく。